神森（男子）仲西（女子）が優勝

男子決勝　神森―浦西　ポストプレーから確実に点を取りに行く知念征吾（神森）＝24日、豊見城市民体育館

八ハンドボール（豊見城市民体育館）

【男子】
▽準決勝
神森 33（17―16）（11―14）15 宮里

【女子】
▽準決勝
神森 21（10―11）（9―5）14 港川
仲西 23（10―13）（7―7）14 浦添
▽決勝
神森 22（8―14）（13―5）18 浦西
仲西 20（8―12）（10―9）19 神森
浦西 30（3―5）（5―10）（2―5）（8―12）（8―14）29 東風平

ハイライト　男子・神森

盤石守備で圧勝

スロースターターの神森は序盤こそ浦西との点取り合戦に付き合ったが、すぐに試合の主導権を握り、登録メンバー全員出場という余裕の試合運びで2年連続23回目の優勝を手にした。

浦西の攻撃の起点となる田仲康太郎対策として、神森の守備は知念征吾を前に出し、他は横一線の布陣で臨んだ。田仲が攻め込むと知念が2人以上で挟み、浦西に攻撃の流れをつくらせなかった。

知念は「きょうの出来は90点。うまく仲間と連係できた」と手応えを感じていた。渡真利将平監督が「体力も負けん気もある」と認める通り、知念は攻撃でも活躍を見せた。

後半、浦西は神森の伊禮雅太と宮城大昌、新垣宏太にマンツーマンディフェンスを付ける。想定していた神森は3人を自陣に下げ、本来サイドの仲程陸がセンターとして、相手コートを広く使う攻撃で得点を積み上げていった。

神森は本大会では、単なる優勝だけでなく「全試合全員出場全員得点」を目標に掲げたが決勝だけは達成できなかった。

次の舞台は九州大会。伊禮は「九州でもいつもの実力を発揮し、次こそ全員出場全員得点を決め、全国出場を手にしたい」と力強く語った。（嘉陽拓也）

女子決勝　仲西―神森　守備からの速攻でシュートを決める松本彩花＝24日、豊見城市民体育館

両サイド躍動　2人で計12点

仲西、春季大会の雪辱

○…仲西の左サイドの上地汐杏蘭が7点、右サイドの比嘉彩花の5点。守りからの速攻だけでなく、オフェンスのセットプレーで仲間がつくったスペースに飛び込み、何度もネットを揺らした。4月の春季大会決勝で神森に負けた悔しさを晴らす2人の活躍に、神森側も「仲西両サイドの正確なシュートにやられた」と敗因を語った。

守りでは知花桜季が神森の攻撃を左右に受け流し、GKの止めやすいコースで打たせて速攻につなげた。

前半を12―9で折り返したが後半22分、奮起した神森に19―19に追い付かれる。しかし、比嘉が狙い澄ましたパスカットからの速攻で20点目を決めると、1点差を死守してリベンジを果たした。長嶺重信監督は「苦しく悔しい思いもあったが沖縄1位で九州大会に臨めることはうれしい」と気合を入れ直した。